

実公平8-3265

(24) (44) 公告日 平成8年(1996)1月31日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup> A 0 1 K 87/08	識別記号	庁内整理番号 8602-2B	F I A 0 1 K 87/ 00	技術表示箇所 6 2 0 E
--	------	-------------------	-----------------------	-------------------

請求項の数 1 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平2-104731	(71) 出願人 999999999 新井 邦治 東京都墨田区八広 5 丁目15番 8 号
(22) 出願日 平成 2 年(1990)10月 4 日	(72) 考案者 新井 邦治 東京都墨田区八広 5 丁目15番 8 号
(65) 公開番号 実開平4-62062	(74) 代理人 弁理士 中村 政美 (外 1 名)
(43) 公開日 平成 4 年(1992) 5 月27日	審査官 番場 得造
	(56) 参考文献 実公 昭57-6135 (J P, Y 2)

(54) 【考案の名称】 竿用ハンドホルダー

1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】 握り部にタイコ状のリールを下向きに装着する落とし込み用の竿に装着する竿用ハンドホルダーであって、竿の長手外側面に沿って配設され、竿尻がわ後端部を外方向に向けて屈曲した帯状のホルダー体を設け、一方、リールシートとリールフットとの間に着脱自在に挟着固定される挟着片と、この挟着片から屈曲延長され、握り部の長手外側面に沿って設けられた帯状の当接片とから成る連結体を設け、この連結体の当接片にホルダー体を竿の長手方向に沿って長さ調整自在に連結したことを特徴とする竿用ハンドホルダー。

## 【考案の詳細な説明】

## (産業上の利用分野)

この考案は、竿の握り部に装着して使用するもので、主に、チヌ釣りにおけるフカセ釣りや落とし込み釣法等

2

の特殊な竿操作や、フライフィッシング等の頻繁な竿操作による疲労を軽減するのに好適な竿用ハンドホルダーに関する。

## (従来技術)

竿を頻繁に操作する釣りとして、チヌ釣りやフライフィッシング、ルアーフィッシング等がある。

例えばチヌ釣りは、春から秋にかけて防波堤などの浅場に寄り、壁に付着している貝類等のエサを捕食するチヌの習性を利用したものであり、一般的なチヌ釣りの方法として、フカセ釣りや落とし込み釣法などが知られている。これらの釣りは、それぞれの狙いによって仕掛けや攻め方が異なるが、基本的には、エサを獲物の前に誘導して誘いをかけ、軽量の仕掛けと竿で微妙なアタリを感知するものである。

そのため、チヌ釣りでは、常に竿先を上下に操作して

獲物のいるポイントへ、エサを誘導し、あたかもエサが潮流に漂うように、或いは、エサが自然に落下するが如く演出する必要がある。

また、両軸受リールを取り付ける際に、釣竿の握り部分に装着することで、釣竿を握る手の人差し指を掛けて握り具合の安定を良好にする握り補助具が実公昭57-6135号公報に記載されている。

更に釣竿に取り付けて、船べりに固定する釣竿グリップが実開昭49-135394号公報に記載されている。このグリップは、釣竿の船べりに当てがうことで、リールを扱うときに釣竿を安定して保持するものである。

(考案が解決しようとする課題)

ところが、チヌ釣りの如く、いかに軽量の仕掛けや竿であっても、常にエサを誘導してポイントを探すには、極めて数多くの竿操作が必要とされる。しかも、この竿の操作中、微妙なアタリを感知するために、竿を持つ指先には常に神経が集中されて緊張状態にあり、手首に掛かる疲労は多大なものがあつた。

特に、チヌ釣りにおける落とし込み釣法では、竿の先端を真下に向けて操作する時間が極めて長くなるものである。しかも、この落とし込み釣法は、通称タイコリールとも称される木リールを下向きに装着し、この木リールの側面を親指を含めた2乃至3本の指で挟みつけることで、リールのブレーキ操作を行なうものである。したがって、リールの操作に2乃至3本の指を使用すると、当然、残った指で竿を保持する必要がある。ところが、従来の握り補助具や釣竿グリップでは、このような落とし込み釣法に必要な片手の操作を補助することは困難であつた。

すなわち、前者の握り補助具は、釣竿を介して上向きに装着した両軸リールの反対側面に設けるものである。したがって、両軸リールに親指1本を添える場合には、残る4本の指が両軸リールの反対側面に位置することになるが、落とし込み釣法のように、下向きに装着したリールを2乃至3本の指で挟みつける場合には、残る指は反対側面に位置せず、むしろリールに対して横側面に位置するものになるから、この位置の握り補助具は、落とし込み釣法には不適當であつた。しかも、従来の握り補助具は、釣竿の外径にあわせた径で円筒状に形成してあるので、この握り補助具の使用は、釣竿の太さや、使用者の手の大きさに限定されてしまう。また、落とし込み釣法では、竹の節目がある和竿の使用も多く、円筒状に形成する握り補助具では、この和竿に用いることもできない。このように、従来の握り補助具は、両軸リールに使用することは可能でも、チヌ釣りにおける落とし込み釣法には全く利用できないものであつた。

一方、船べりに固定する釣竿グリップは、船釣り専用のもので、船べりに固定することは可能でも、竿を持って操作することはできず、この釣竿グリップもまた、落とし込み釣法には全く利用できないものである。

そこでこの考案は、上述の課題を解消すべく案出されたもので、チヌ釣りにおける落とし込み釣法等のように、片手での竿操作が極めて頻繁な釣りにおいて、竿操作による手指等の疲労を軽減することができる竿用ハンドホルダーの提供を目的とするものである。

(課題を解決するための手段)

上述の目的を達成すべくこの考案は、握り部P1にタイコ状のリールを下向きに装着する落とし込み用の竿Pに装着する竿用ハンドホルダーであつて、竿Pの長手外側面に沿って配設され、竿尻がわ後端部を外方向に向けて屈曲した弾性带状のホルダー体1を設け、一方、リールシートP2とリーフフットQ1との間に着脱自在に挟着固定される挟着片2Aを有し、ホルダー体1を竿Pの長手方向に沿って長さ調整自在に連結する带状の連結体2を設けたことにある。

(作用)

この考案によると、ホルダー体は、握り部の外側面から外がわ方向に向けて湾曲した部分が手指に係止し、親指を含めて2本乃至3本の指でリールを挟み付けることができる。また、ホルダー体の長さを調整することで使用者の手に馴染むようにするものである。

(実施例)

以下、図面を参照してこの考案の実施例を説明する。

図に示される符号1は、釣竿Pの握り部P1に配設されるホルダー体である。このホルダー体1は、握り部P1の長手外側面に沿って設けられる带状の弾性材で形成されており、握り部P1の外側面に沿った連結片1Bから竿尻P3がわ端部の把持片1Aを外がわ方向に向けて屈曲している。そして、この屈曲した把持片1Aが、竿Pを軽く把持した手指、例えば小指の付根付近に係止するようにしてある。ホルダー体1の材質は、軽金属板材が望ましいが、プラスチック等の使用も可能である。また、ホルダー体1の幅員や長さ等は任意に設定できる。さらに、把持片1Aの形状も図示に限定されず、例えば、把持片1Aを延長して手指に巻き付けるように形成してもよく、要は、竿Pを軽く把持した手指に係止する形状であればよいものである。

符号2は、ホルダー体1を竿Pに連結するための連結体である。この連結体2は、リールシートP2とリーフフットQ1との間に着脱自在に挟着固定される挟着片2Aから、握り部P1の長手外側面に沿って設けられる当接片2Bを屈曲延長したものである。図示例では、連結体2の当接片2Bに嵌合凹部2Cを形成し、ホルダー体1の連結片1B内側に突設した嵌合凸部1Cをこの嵌合凹部2Cに嵌合せしめてある。また、ホルダー体1が振れないように、連結片1Bの長手両側縁を湾曲し、連結体2の当接片2B長手両側縁に連結片1Bの長手両側縁をスライド自在に重ね合せている。そして、ホルダー体1の固定を確実にするために、ビニルテープRで固定している。このとき、ビニルテープRの代わりに熱収縮性のビニルパイプをホルダー

5

体1に巻き付けて固定することも可能であり、また、ホルダー体1と連結体2とをベルト固定式にて連結する手段や面接着ファスナーを使用するなど、その連結手段は問わず、ホルダー体1を握り部P1に直接固定してもよいものである。さらに、連結体2を握り部P1の外側面に固定する際に、連結体2と握り部P1との間にラバーや皮革等を介することで、連結体2の固定を確実にし、しかも、連結体2を装着することによる握り部P1の損傷を防止できる。

第3図で示す連結体2は、木製等のリール本体Qに装着する糸絡み防止リング2Dを設けたものである。この糸絡み防止リング2Dは、スプールQ2の直径よりも大きいリング状を成し、このリング状の周囲縁をスプールQ2内側に屈曲することで、糸絡みを防止するものであるが、このように、連結体2に糸絡み防止リング2Dを設けることで、リールの使い勝手が良好になる上に、連結体2の固定力を高めることができる利点がある。このとき、図示では、連結体2と糸絡み防止リング2Dとを一体に形成してあるが、これらを別体に形成して着脱自在に連結してもよい。

(考案の効果)

この考案は、上述の如く構成したことにより当初の目的を達成する。

すなわち、竿Pの長手外側面に沿って配設され、竿尻がわ後端部を外方向に向けて屈曲した弾性帯状のホルダー体1を設け、一方、リールシートP2とリールフットQ1との間に着脱自在に挟着固定される挟着片2Aを有し、ホルダー体1を竿Pの長手方向に沿って長さ調整自在に連結する帯状の連結体2を設けたことにより、ホルダー体

6

1は、手指に係止し、握り部P1を軽く握った手指に竿Pの重量を分散するから竿P操作による手指等の疲労を軽減する。しかも、重量を分散した状態で手指にアタリを感じるできるので、微妙なアタリを指先で感知し得て竿の感度を高めることができる。この結果、チヌ釣りの如く、下向きに装着したリールを指で挟み付けるといった特殊な釣りにおいて、すこぶる良好なホールド感が得られる。

また、ホルダー体1は、帯状の連結体2によって、竿Pの長手方向に沿ってスプールQ2と握り部P1との間隔が長さ調整自在になるから、個人差のある使用者の個々の手幅に合わせることが可能になり、使用者が最も操作しやすい位置で使用できる。

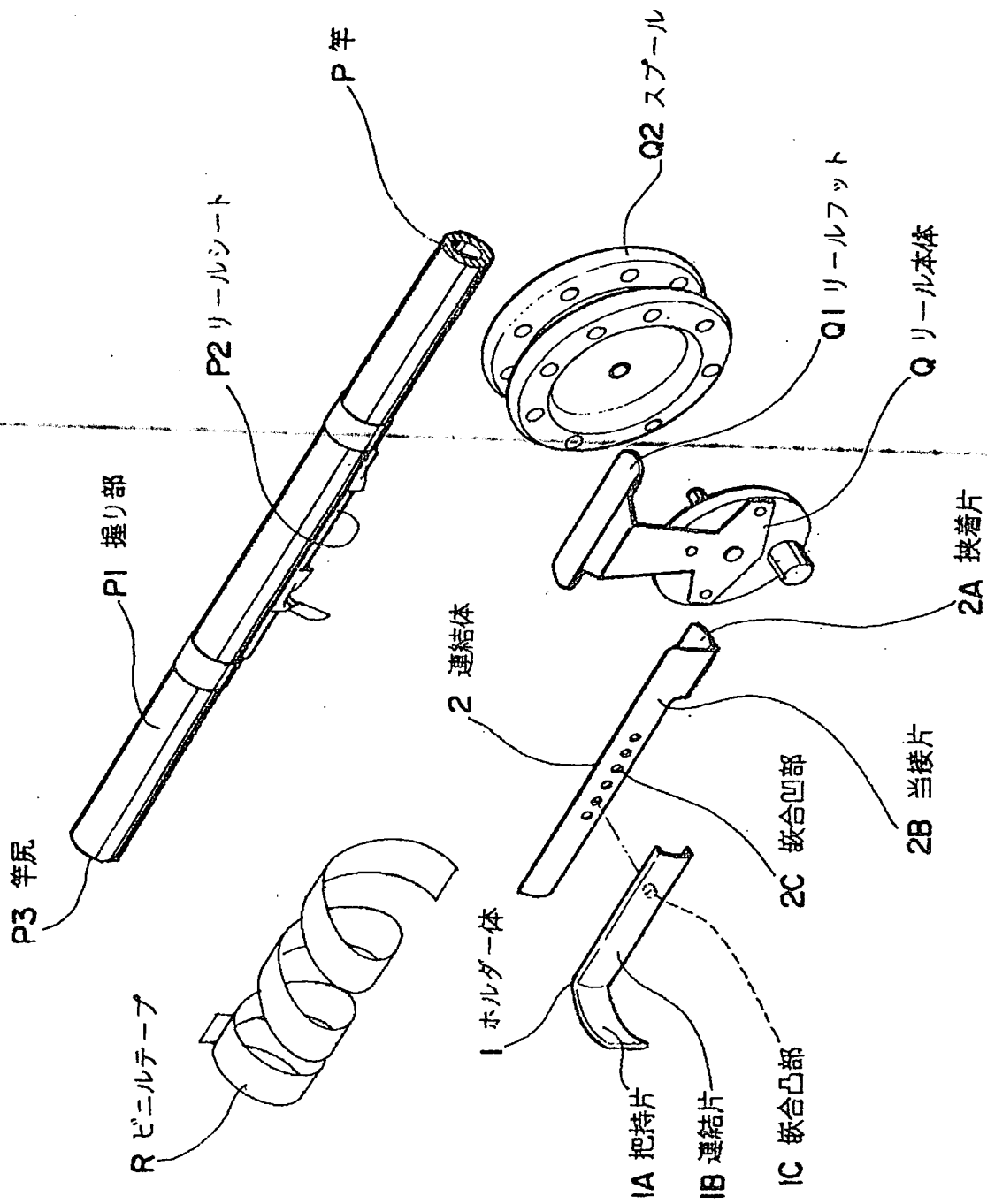
このようにこの考案によれば、チヌ釣りにおける落とし込み釣法等の竿操作が極めて頻繁で特殊な釣りにおいて、竿操作による手指等の疲労を軽減し、しかも、微妙なアタリを手の感知し得て竿の感度を高めることができるなどといった実用上有益な種々の効果を奏するものである。

#### 20 【図面の簡単な説明】

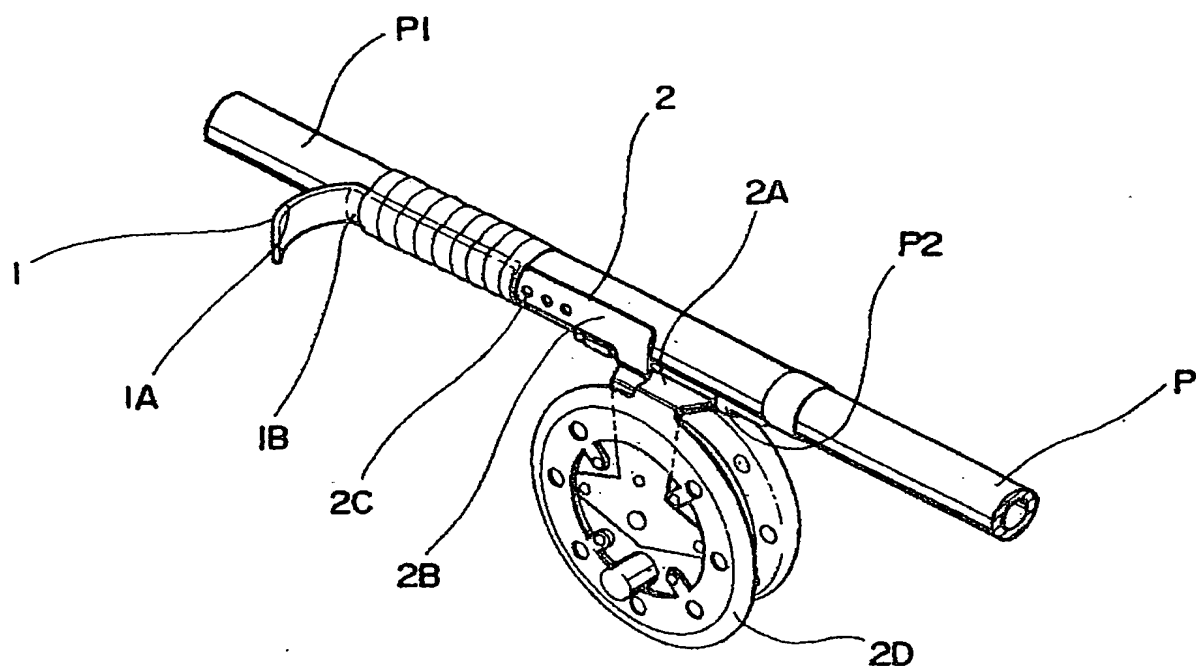
図面はこの考案の実施例を示すもので、第1図は分解斜視図、第2図は使用状態を示す平面図、第3図は他の実施例を示す斜視図である。

P…竿、P1…握り部、P2…リールシート、P3…竿尻、Q…リール本体、Q1…リールフット、Q2…スプール、R…ビニルテープ、1…ホルダー体、1A…把持片、1B…連結片、1C…嵌合凸部、2…連結体、2A…挟着片、2B…当接片、2C…嵌合凹部、2D…糸絡み防止リング。

【第1図】



【第3図】



【第2図】

